

---

# あいつ

いがっさい・アリー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

あいつ

### 【Zマーク】

Z2754C

### 【作者名】

いがつせこ・アリー

### 【あらすじ】

言えなかつた本当の気持ち理由を書いた、小説ではないかもしけませんがどうぞ。

もう、3年前のこと、軽はずみな言動で別れた。

まだ気はあったのにその場をやりきるために言つた言葉  
「別にアイツなんてどうでもいいんさあ。なんなら、オレが嫌いだ  
つていう事をアイツに言つてきてもいいよ！」

と友達に言い、実行したために、別れた。

最低の事を俺はした、そのあとメールは100通ぐらいきた、

ゴメンね

もう、他の人にいわないから、前だ . . .

ねえ、返事返して、よくわかんない、わかんない、全然わかんない、  
何がいけないのか理 . . .

電話にも出てくれないんだ、何がいけないか教えて、一つでもいい  
から、教えてお願い。

と、似たメールがいつもきた。メールがくるのが嫌だった、逃げた  
かった。けど、メルアドは変えなかつた、迷つてた、分からなかつ  
た。

まだ付き合っていた時、色んなことが新鮮に感じ、出かけた時は他  
人の目を気にし、少しほずかしかつた。

夏になると、ふと思い出すことがある、緊張していた夜を。

夏は夜に打ち上がる花火を見に一人だけで行き、見てている最中に手を繫「こう」と思つていたのに手が当たるだけで、

「『メン』」

と言つだけで、すぐに手をひっこめてしまつ、心を決め頑張るが、触れただけで意図も簡単にその意志は折れてしまう、本当は手を繫ぎながら見たかった、できればキスだつてしたかった、だが、なんもしなかつた。できなかつた。けれど、夜に一緒にいるだけで大人になつた氣分になり面白く、緊張した。季節に関わらず遊ぶといつたらいつもアイツん家だった、やることもいつも同じ、カルピス飲んで話して、場の雰囲気が悪くなると、アイツの妹が重たい空気を明るく居やすい雰囲気と変えてくれた。楽しかつた、帰りたくもなかつた。

でも、別れた  
間違えた

冬になると思い出す、初めて長い時間、手に触れた日のことをキミは少し雪が降つてきただけで喜び、はしゃぎ回り、積もつたとなると、その手で雪を感じ、雪を初めて触つた人のようだつた見していく飽きなかつた。

その時だよ、

「あ～～手があ～痛い」

そう聞いたから、だからオレは手を握り温めたんだよ、キミはわかんないだろうけど、手を握りたかつたんだ、守りたかつた。手だけでない、キミも

でも、オレは弱くダメだつたね。本当に間違えた。

冬も夏も必ず遊んだあとはあの公園に行つた。あの公園にあつた木で造られた大きい船のジャングルジムはもうないよ。知つてた？ その近くにあつた、ブランコみたいなので遊び、キミは調子に乗つて頭打つたよね、次の日タンゴブできてたけど、ぶつけた瞬間に頭撫でてあげたけど意味なかつた？

今になつて聞きたい色々な話しさしたい、でも、遅すぎだ、というより、それは自己中心的だとわかつた。

あの時はダメだつたんだ、みんなが付き合つてゐ事気付いたから、嬉しかつたけど、恥ずかしかつた、だから言つたんだ、本当はその場を逃れるために言つて、後で嘘だつたつて言つて、また、楽しく話したり、あそんだり、緊張したりする口をいつまでも繰り返したかつた。でも、自分の言つたことがあまりにも酷い事だと気付き、そして、なにより、キミに1番言われたくなかった言葉を言つちやつたから謝りづらくなつたんだ。

これが理由なんだ、でも、もう氣はない、だから、やつと言えるようになつた、あつたらいうすべての事を今度は簡単に折れない意志で、だから、また、俺の前に姿をみして、そして、おもいつきり殴つて。殴つてください。一度と同じことを繰り返さないために。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2754c/>

---

あいつ

2010年10月22日00時05分発行